

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

政府の飲食店への「圧力」 取り締まりではなく補償を(3面)
相手を大事にするって? 恋愛、性的同意を考える(6、7面)
核兵器のない平和で公正な世界を (10、11面)

「命より五輪」でいいわけない



▶五輪の開会式が行われた国立競技場。開会式当日、競技場周辺はカメラやスマホで写真を撮る人であふれた(7月23日、東京・新宿区)

轟音を響かせ空に五輪のシンボルマークをつくるブルーインパルスを撮影しようと、開会式が行われる国立競技場周辺に集まり過「密」になる人々のプロペラの音が鳴り響くという異様な雰囲気にも包まれました。新型コロナウイルス感染が急拡大し、緊急事態宣言が東京に発令される中、東京五輪・パラリンピック(オリンピック)は7月21日〜8月8日、パラリンピックは8月24日〜9月5日)の開催が強行されました。多くの青年、国民の不安や懸念の声を無視してなぜ五輪は開催されるのか、いま中止を求めることの意義は何か考えます。(文中一部仮名、塩田悠玄記者)

今からでも中止の決断を



▲さまざまな「NO」を掲げてアピールし、身を揺らしながら行進する参加者(7月18日、東京・新宿区、「しんぶん赤旗」提供)

都内で最も多くの大会会場がある江東区に住む松原次郎(28)は、「政府が掲げている『命より五輪』という考えは、絶対に許せない」と話している。松原は、福島の原発事故で、汚染水の放出の問題もあつた。汚染水の放出でも、強引に物事を進めてきて、オリンピックもやると話している。松原は、福島の原発事故で、汚染水の放出の問題もあつた。汚染水の放出でも、強引に物事を進めてきて、オリンピックもやると話している。松原は、福島の原発事故で、汚染水の放出の問題もあつた。汚染水の放出でも、強引に物事を進めてきて、オリンピックもやると話している。

政府は、東京都に対し7月12日から8月22日まで、と接触させない「パブル」を4度目となる緊急事態宣言式は完全に崩壊してしまふ。東京五輪は、緊急事態宣言下での開催を迎えました。東京ではこの間、コロナの感染再拡大が深刻化しています。新規感染者は7月14日から1000人を超え、22日には新規感染者が1979人に上り、感染者の増加に歯止めがかからない状況になっています。都のモニタリング会議の予測では、8月上旬には第3波を上回る約2600人になる見通し不足によるワクチン不足が懸念されています。選手や大会関係者、報道関係者など、人流は数十万人に上り、感染拡大のリスクを大きく増大させています。コロナに感染した大会関係者は106人(7月23日時点)で、方針演説で五輪の開催を

「応援したい気持ちになれない」
五輪開催を青年はどう受け止めているのでしょうか。都内の診療所で事務として働く佐藤奈々子(25)は、「感染爆発があったら、地域の診療所はコロナ優先の診療を行うことになる。そうならば、医療現場で見れなくなった患者が地域にあふれ返る」と話している。「去年の感染拡大の時、慢性疾患の人の診療などが延期になる事態も実際に起きた。そういう事態がもう一回くり返されるかもしれない」と危惧している。都内で最も多くの大会会場がある江東区に住む松原次郎(28)は、「政府が掲げている『命より五輪』という考えは、絶対に許せない」と話している。松原は、福島の原発事故で、汚染水の放出の問題もあつた。汚染水の放出でも、強引に物事を進めてきて、オリンピックもやると話している。

「破たん明らかな」「安心・安全」
人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証しにすると発言。7月8日の記者会見で、「新型コロナウイルスの中の安心・安全な大会の実現、人類が困難に直面する中、世界が一つになれる、力を合わせてこの難局を乗り越えていることを世界に発信するいい機会だ」と語りました。しかし、東京の感染状況を見れば、「安心・安全」な五輪はすでに破たんしていると言わざるを得ません。現在、先進国と発展途上国との間で「ワクチン格差」が大問題となつてい

「破たん明らかな」「安心・安全」
人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証しにすると発言。7月8日の記者会見で、「新型コロナウイルスの中の安心・安全な大会の実現、人類が困難に直面する中、世界が一つになれる、力を合わせてこの難局を乗り越えていることを世界に発信するいい機会だ」と語りました。しかし、東京の感染状況を見れば、「安心・安全」な五輪はすでに破たんしていると言わざるを得ません。現在、先進国と発展途上国との間で「ワクチン格差」が大問題となつてい

「破たん明らかな」「安心・安全」
人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証しにすると発言。7月8日の記者会見で、「新型コロナウイルスの中の安心・安全な大会の実現、人類が困難に直面する中、世界が一つになれる、力を合わせてこの難局を乗り越えていることを世界に発信するいい機会だ」と語りました。しかし、東京の感染状況を見れば、「安心・安全」な五輪はすでに破たんしていると言わざるを得ません。現在、先進国と発展途上国との間で「ワクチン格差」が大問題となつてい



▲デルタ株の影響でコロナ感染拡大に歯止めがかからない中で、医療体制をさらにひっ迫させる五輪の中止をうたっている立川相互病院(7月21日、東京・立川市)